

幼少期感動体験
プログラム作成ガイドライン

五感全開 ゴビゴビ 心で キヤンチ



中澤少年 小学3年生

大学生の夏休みにキャンプに行ったときのこと、「麦わら帽子がよく似合う」と言われた。それはそうだろう。高知では夏の子どもは麦わら帽子と相場が決まっていたのだから、年季の入れようが違う。

少年の頃の夏は、フナ釣り、筒でウナギ捕り、チャンでゴリ突きなど、川遊びが多かった。ゴリを上手に突きたいから、浮かんで泳ぐことよりも潜ることの方が上手になった。その他の季節は野山をかけまわっていた。

遊び道具はほとんど自分で作った。家業は農業だったので道具を作る刃物類には事欠かなかった。釣り竿、ウナギを捕る筒、野鳥を捕る霞み網、凧なども自分で作った。縦の子ども社会があったので、作り方は年上の者から年下の者に伝承されていった。下積みを我慢することも、後輩の面倒を見ることが、自然の楽しさや恐ろしさの感覚もひとりでの身につけていった。

今の子どもたちにも、当時とは社会環境も違ってはいるが、できるだけ多く自然体験をさせたいと思う。必ずや心身ともに健やかな成長につながると思う。

そう、高知の子どもたちには、やっぱり夏も冬もお日様のもと、川や野山をかけまわる姿がよく似合っているのだから。

ビビビ 五感全開 心でキャッチ!

幼少期感動体験
プログラム作成ガイドライン

contents



1章 なぜ、今、親子で感動体験が必要なのか—— 4

- 「感動体験プログラム」策定にあたって—— 5
1. 3つの基本的な考え方—— 6
 2. プログラムづくりの5つの視点—— 7
 3. 指導者の役割—— 8
 4. 子どもたちの現状—— 9

2章 楽しいこと いっしょに！—— 11

子どもたちの体験活動プログラム事例

- 磯の名探偵物語—— 12
- 森においでよ物語—— 16
- はじめてのコックさん物語—— 20

3章 プログラムをつくってみよう！—— 25

1. プランの立て方—— 26
2. PDCAサイクルの活用—— 27
3. 「プランニングシート」記入例—— 28
4. 「チェックシート」記入例—— 29
- 実際につくってみよう！ プランニングシート—— 30
- チェックも大切だよ！ チェックシート—— 31
- プログラムシート—— 32

プログラム事例

自然体験

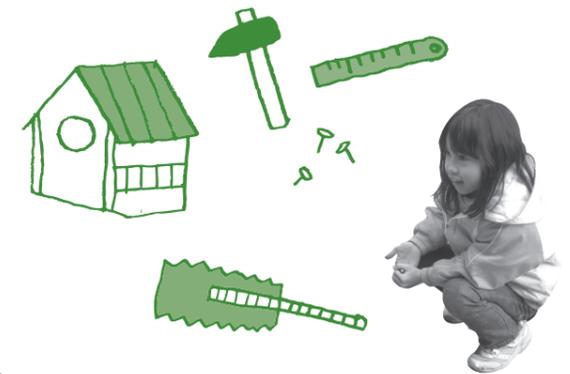
- ① はじめまして海(川)です—— 34
- ② 子ども建築士になろう—— 36

文化体験

- ① おはなしワールド—— 38
- ② 「コロコロアート」と「こねこねあーと」—— 40

参考資料—— 42

- その他のプログラム—— 42
- 県内の青少年施設等—— 43
- ボランティア・体験情報—— 43
- ボランティア保険—— 43
- 幼少期における感動体験モデル事業検討委員/協力者—— 44



1 章 なぜ、今、親子で感動体験が必要なのか

1. 3つの基本的な考え方

2. プログラムづくりの5つの視点

3. 指導者の役割

4. 子どもたちの現状

「感動体験プログラム」策定にあたって

高知県では、本物の舞台芸術を鑑賞する「こどもの文化浴事業」や、自然体験や社会体験を通して豊かな人間性を育む「こどもの心育て体験事業」などを実施し、子どもたちの感性を磨き、心豊かに育つ環境づくりを行ってまいりました。

「文化浴」は、平成10年度から19年度までの10年間で延べ476回公演し、10万人を超える子どもたちが舞台鑑賞を行いました。その子どもたちは今、歳月を経て、子育て世代になろうとしています。

また、「心育て体験」は、12年度から19年度まで8年間で、延べ174か所の地域の団体や市町村に助成して、体験活動の取り組みを支援してきました。

しかし、これまでの取り組みでは、「文化浴」は、学校等での鑑賞機会であったこと、「心育て体験」は、地域のイベントや一過性のものが多かったことなどから、親子で感動を共有したり、継続的な活動につなげることは至りませんでした。

文部科学省の調査結果では、平成10年と17年で比較してみても、日常生活の中で、海や川で遊んだり、朝日や星をみたりする経験が少なくなっていることが明らかになっています。県内でも、幼稚園、保育所、学校の教育活動としての野外活動等がありますが、親子で継続的に参加できる体験活動は、あまり提供されていない現状です。

その後の成長に大きく影響するといわれている幼少期(10歳頃まで)に、五感を存分に使って豊かな実体験することが重要であることから、本県の

身近にある豊かな自然や文化を、日常生活に取り入れて、親子で一緒に体験できるような場づくりを進めていくことが必要であると考えます。

このようなことから、保護者や周囲の大人たちが、子どもの発達段階に応じて、どのような視点で、どのような支援を行い、どのように“しかけ”を行ったらよいかを考えるための手引きとして、「幼少期感動体験プログラム作成ガイドライン」を作成することとしました。

本書では、各地域における自然や文化の素材、子どもの実態に応じて、活動内容を組み立てることができますよう、1章では、プログラムを実施するにあたっての考え方や指導者の役割、2章では、プログラムの事例、3章ではプログラムの作成のためのシートなど、具体的な手法を掲載しています。

プログラムの事例では、検討委員会の各委員にご協力いただき、案を持ち寄って、実践と検証を経て作成しています。しかし、これは、完成したものではありません。今後、さらに実践と検証を加えて、質量ともに充実していきたいと考えています。

また、平成21年度は、実践者向けの研修や子育て家庭向けの啓発フォーラム等も開催しながら、各地域での体験活動の普及を図っていくこととしています。

子どもの育成に携わる方々一人ひとりが、主体的に取り組むことで、多くの子どもたちが感動を体験できますよう、工夫してご活用ください。

3つの基本的な考え方

幼少期には、さまざまな経験や出会いを通じて、成功体験や失敗体験を繰り返しながら、自信やねばり強さを身につけていきます。この時期は、「できた!」という達成感を味わうと同時に、周囲からほめられたり、認められたりすることで、生涯にわたって学習し続ける自己学習力の基礎を培う大切な時期です。

そういった視点から、体験活動を行う際には、幼少期の成長発達の特徴に基づいて、繰り返し経験できる「体験」を通じた「学び」の環境づくりを大切にしましょう。

1 子どもの主体性を生かす

幼少期の体験活動では、画一的、受動的なプログラムではなく、自ら主体的に働きかけができるよう、子どもが興味・関心を抱く様子を見守りながら、大人が援助することが大切です。活動の主体は、集団ではなく、子ども一人ひとりであることを意識して、ゆとりを持った時間の流れ、活動場所、道具、スタッフなどの環境を構成する計画づくりが必要です。

2 子どもの生活の場を広げる

幼少期には、親などの身近な大人との家庭の中での生活から、家庭の外へ行動範囲が広がるとともに、だんだんと興味・関心の幅も広がり、活動意欲も高まってきます。また、親以外の大人や子ども同士など、人とのかわりも広がり、がまんや思いやり、きまりを守ることなどを身につけていきます。

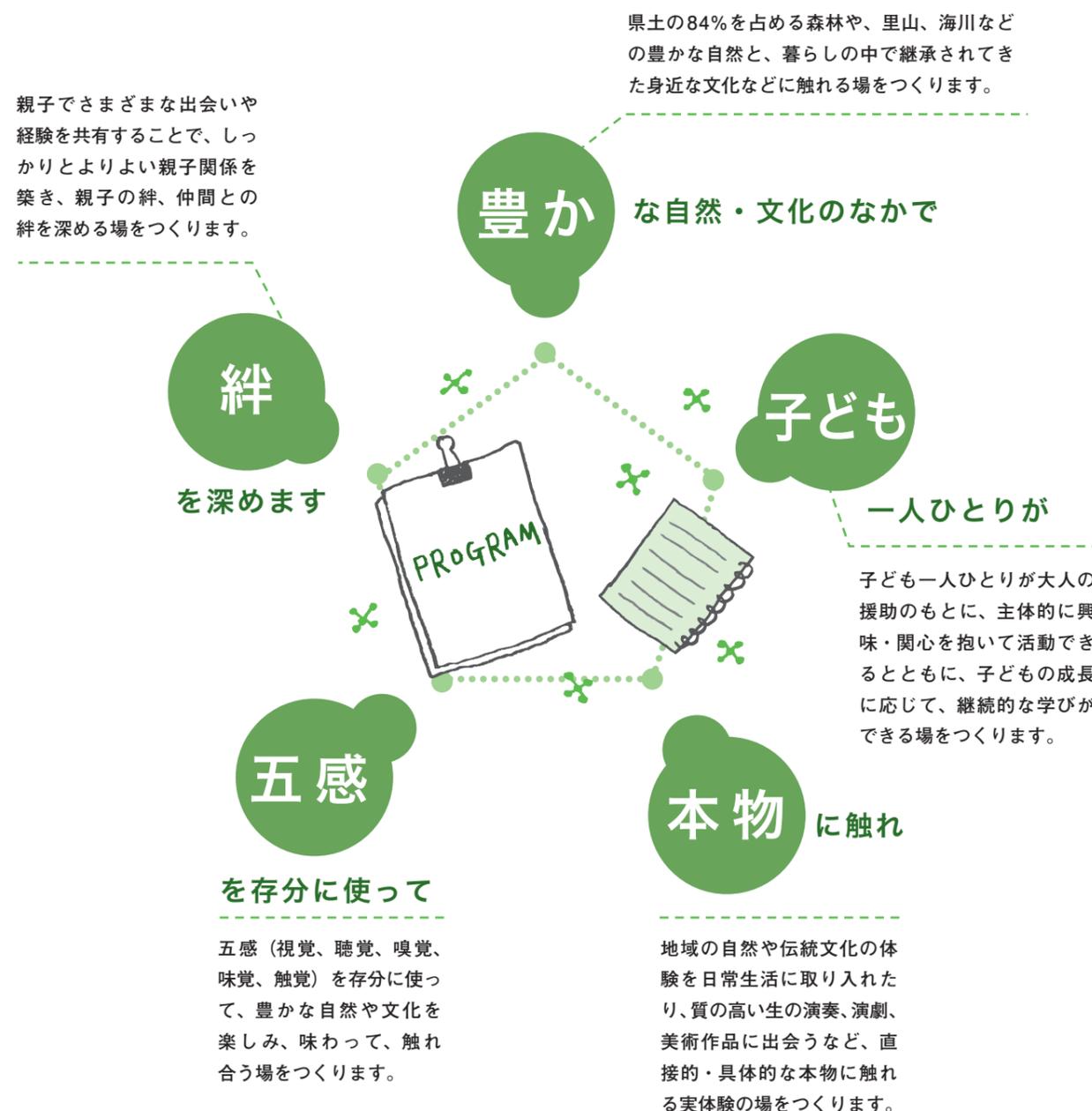
この時期の体験活動では、身近な自然、暮らしの中の文化、さまざまな出来事や人々との出会いなどを通じて、子どもが必要な体験を繰り返し、積み重ねていけるような計画づくりが必要です。

3 子どもの実体験を深める

幼少期は、心身の発達が著しく、周囲の環境や出来事が将来の生き方、学び方にも大きく影響を受ける時期です。直接的・具体的、本物やライブでの実体験を通して、子ども自身が深く興味・関心を抱き、じっくりと観たり、聴いたり、触ったりして活動に取り組むことができるような計画づくりが必要です。

プログラムづくりの5つの視点

幼少期の体験活動では、子ども一人ひとりが興味・関心を抱き、思う存分楽しんだり、喜んだり、驚いたり、発見したりする経験を積み重ねることが大切です。以下の5つの視点から、さまざまな人や物事との出会いがあるプログラムづくりを心がけましょう。



指導者の役割

幼少期における体験活動では、指導者(大人)の役割がとても重要です。

子ども一人ひとりが主体性を発揮できるよう、体験活動を意図的に構成し、子どもの興味・関心を引き出す活動を支援することが求められます。

POINT 1 まずは「体験の場」をつくるのが大切です。

まずは子どもを身近な「体験の場」に連れて行くことです。
遊び方を特に教えなくても、子どもの「体験の場」での遊びや探検はどんどん広がっていきます。

POINT 2 子どもたちの感動に寄り添って共感することが大切です。

子どもの驚きや感動と一緒に笑い、喜ぶといった「共感する態度」や、見つけたことを「ほめる姿勢」は、子どもが次の活動に挑戦しようとする気持ちを支えます。

POINT 3 先入観を与えないことが大切です。

大人の価値観を子どもに押しつけてしまうと、自分で判断する前に、価値観がすり込まれてしまいます。
何に興味を持つかは、子ども自身が決めることで、大人はそれを見守るだけなのです。

POINT 4 子どもをじっと「待つ」ことが大切です。

子どもが主体的に何かをする前に、大人が何かを「与える」もしくは「止める」ことは、子どもの意欲・やる気を伸ばす邪魔になります。
意欲・やる気の原動力となる好奇心を伸ばすには、「待つ」ことです。

POINT 5 過剰にお膳立てをしないことが大切です。

体験の場には、危険もあります。これをきちんと管理することは大切ですが、過剰に反応しすぎて最初から全てを取り除いてはいけません。
小さな危険での小さいケガや失敗は、大きな危険を防ぐことにつながります。

子どもたちの現状

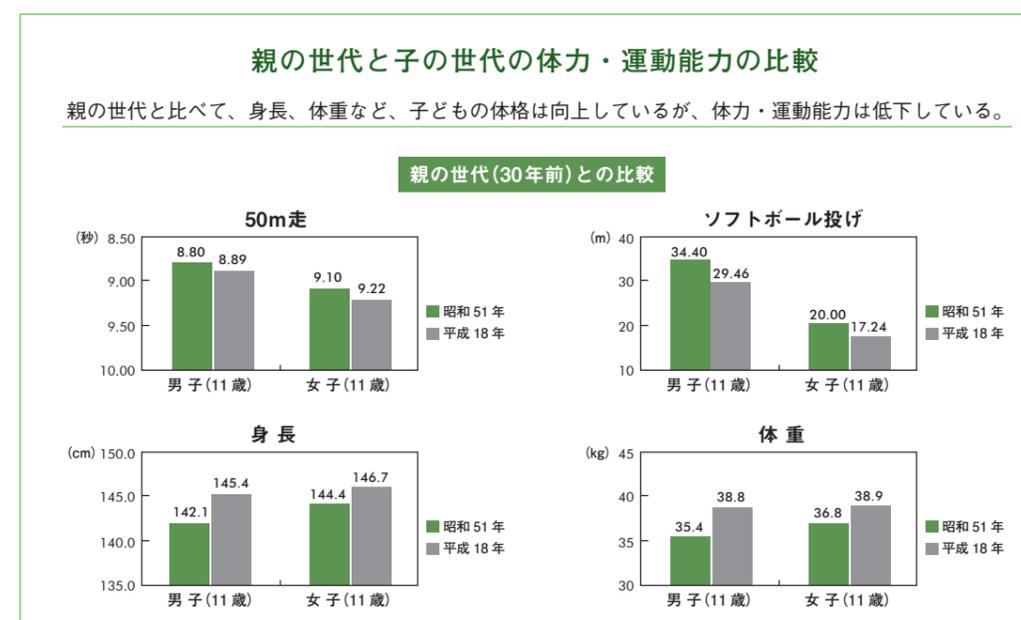
1. 子どもの体験活動が減少しています

平成17年度「青少年の自然体験活動等に関する実態調査報告書」(独立行政法人 国立青少年教育振興機構)によると、自然の中で体験活動をする子どもが、平成10年度と比較して大きく減少していることがわかります。海や川での自然体験のみならず、太陽が昇ったり沈んだりするところを見たことや、夜空の星をゆっくり見たことすら、ほとんどしたことのない子どもたちが3分の1以上となっています。

体験活動の内容	ほとんどしたことのない割合
大きな木に登ったこと	平成10年 43% 平成17年 54%
昆虫を捕まえたこと	平成10年 19% 平成17年 35%
海や川で泳いだこと	平成10年 10% 平成17年 26%
海や川で貝を探ったり魚を釣ったこと	平成10年 22% 平成17年 40%
太陽が昇るところや沈むところを見たこと	平成10年 34% 平成17年 43%
夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと	平成10年 22% 平成17年 35%

2. 体力・運動能力が低下しています

平成18年度「体力・運動能力調査」(文部科学省)によると、親の世代と比較し、現在の子どもの身長、体重などの体格は向上しているが、運動能力は低下しています。このことは、子どもの体験活動の減少も影響していると考えられるのではないのでしょうか。



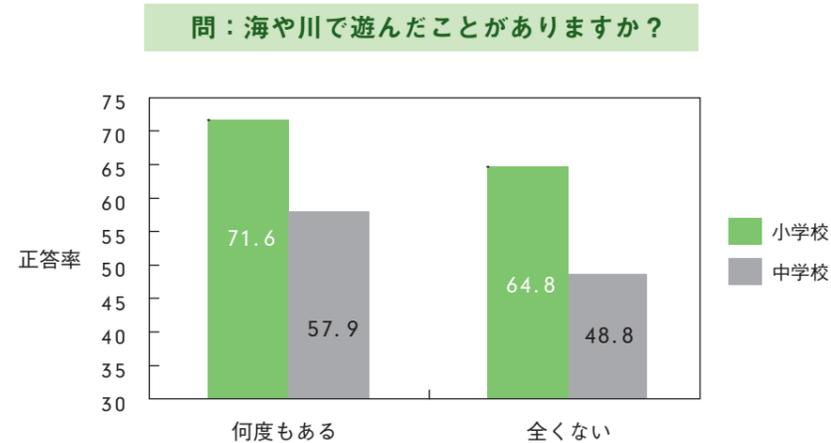
2章 楽しいこといっっぱい！

子どもたちの体験活動プログラム事例

- 磯の名探偵物語
- 森においでよ物語
- はじめてのコックさん物語

3. 体験活動の多い子どもは学力も高いという傾向があります

平成19年度「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)によると、海や川で何度も遊んだことがある子どもと、全くない子どもを比較すると、体験の多い子どもの正答率は、全くない子どもの正答率より中学校で7%、小学校では10%も高くなっています。このことから、体験活動を経験することにより、体力面のみならず、学力面にもプラスに作用していることがわかります。



4. 親子で体験をさせる機会を増やすことが求められています

平成20年度「高知県県民世論調査」によると、家庭の教育力を向上させるためには、「親子のふれあい、共に行動する機会や時間を増やす」47.3%、「子どもにいろいろな体験をさせる機会を増やす」34.5%と、多くの県民が親子でのふれあいや、親子が共に行動すること、また、いろいろな体験活動をさせることが必要であると考えています。

問：家庭の教育力を向上させるためにはどうしたらよいと思いますか

1位	基本的な生活習慣を定着させる	62.1%
2位	親子のふれあい、共に行動する機会や時間を増やす	47.3%
3位	子どもにいろいろな体験をさせる機会を増やす	34.5%
4位	家庭で宿題や家庭学習をするよう親が習慣づける	32.1%



CASE 01

磯の名探偵物語

～ある少年サッカー指導者と「磯の名探偵」との出会い～



指導員：新谷 英生 さん

土佐清水の新谷です。少年サッカークラブの指導をしています。以前から子どもたちに、サッカーだけでなくいろいろな体験をしてもらいたと思っていました。でも、いざ実行に移すと、どんなことをすればいいかわからなくて……。秋のある日、高知県教育委員会の生涯学習課 HP で、『自然体験活動等実施委託事業』の公募を知りました。今までの夢が実現できるかも？という思いで、さっそく応募！正式に実施できることになり、「少年サッカークラブ」だけでなく、「なぎなたクラブ」の女の子にも呼びかけ、総勢 52名の親子が参加してくれました。



道具を持って「磯の名探偵」スタートです！

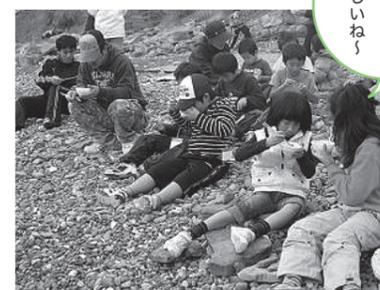


あれっ!?
なんか
変なもの発見！



11 月末だけど、清水の海はあったかい！
がまんできずに海に入ってしまいました。

大きな「ナマコ」を発見！
あとで海に帰してあげよう。



みんなで採った貝は、地元の方がおいしいみそ汁にしてくれました。
何杯もお代わりをしながら食べました。



先生だよ〜
これ、誰？



貝をいっぱい
見つけたよ！
食べられるかな？



みんな、
楽しかったあ〜
楽しかったー！
またやりたいー！

プログラムを終えて



すごく楽しい体験となりました。子どもたちに、「今までこういう体験をしたことのある人、手を上げて！」と質問しましたが、ほとんど手が上がりませんでした。80%の子どもが初体験のようで、地元の子どものない保護者も、たくさんいました。あ然です……。やはり、こういう体験は絶対必要だ！と、改めて感じました。

プログラム名 磯の名探偵

11月の土佐清水市での事例を紹介しています。季節や場所に応じて適宜アレンジしましょう。

目的・ねらい

- ・日頃接することの少ない海の生き物を発見したり、観察したりする
- ・磯辺にはたくさんの生き物がいることを知る
- ・親子の絆、仲間への気遣いなどを学ぶ

実施時期・時間： 11月 / 3時間 30分

実施場所： 土佐清水市下益野 太田の浜

対象年齢： 6～8歳

対象人数： 52名（親子23組）

指導者・支援者： 8名

準備物：
 参加者＝ぬれてもいい靴 帽子 着替え
 主催者＝バケツ、軍手、タモ網、箱メガネ、ルーペ、ガス器具、鍋、焼き網、ノミ、えぐり、マイナスドライバー（ひもを付けておく）、安全ジャンパー、スケッチブック、色鉛筆（クレヨン）、ビニール袋、生き物の写真（絵）他

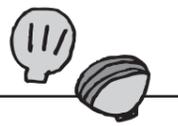
プログラム構成

- ① 導入**
あいさつ・自己紹介／注意事項の説明
- ② 展開**
 1. 磯の様子・波の様子を観察する
 2. 生き物発見、採取
 3. ①観察した生き物をもとの場所に返す
②砂浜へ移動し、磯辺の芸術会を開催する
 4. 採った貝をみんなで食べる
 5. 実際の貝を使った「貝の名前」当てクイズ
「貝の食べ方」クイズ
- ③ まとめ**
自分の発見をみんなに伝える

活動内容（どのような手順で、どこで、何をするか）

	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
展開	あいさつ・自己紹介／注意事項の説明			
	・親と一緒に注意事項を聞く	・子どもと一緒に注意事項を聞く	・磯のどのようなところが楽しいか説明 ・自然は楽しいが命との関係があるという説明をする ・約束事の徹底をする ・危険な箇所(ぬれた岩場など)の説明 ・保護者にも安全管理の徹底を行う	・事前に新聞などで潮の満ち引きの時間を調べておく ・事前に下見をしておいてどういう活動ができるのかを調べておく
展開	1：磯の様子・波の様子を観察する			
	・磯の様子・波の様子を観察する ・磯のおいを感じる ・磯辺を親と一緒に歩いてみる	・親も子どもと一緒に観察する ・足もとに気をつけながら子どもと一緒に歩く	・危険なところに近づかないよう注意する ・岩場に何があるか簡単に説明する	・磯辺ではなく川岸をフィールドとしてもよい ・危険なので海には入らないように気をつける ・ケガをした時の対応を指導者で話しておく

	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
展開	2：生き物発見、採取			
	・岩かけや水たまりにいる生き物を探す ・箱メガネを使って水の中にある生き物を見つける ・実際に貝や魚を採取する ・網ですくって、海水を入れたバケツに入れてルーペなどを使ってじっくり観察する ・気に入った生き物をスケッチする	亀の手／ウニ ツメタカ／エビ カラスグチ／ヌケズ グジマ／ヒトデ アメフラシ／磯カキ ニガニシ	・箱メガネ、ルーペ、タモ網、バケツを渡し、毒のある生き物を写真を使って注意する ・スケッチ用のスケッチブックや色鉛筆を渡す ・実物や写真、絵を使って、見つけやすい生き物を紹介するとともにそれ以外の生き物も探そう伝える ・生き物がある岩場へ誘導する ・実際の岩場の生き物がどこにいるか探し方、採り方を説明する	・波の変化に注意すること
展開	3：①観察した生き物をもとの場所に返す			
	・採った生き物をもとの場所に返す ・家で育てたり、観察したいものがあれば、必要な分だけ持って帰ってもよい		・必要に応じてビニール袋を配る	
展開	3：②砂浜へ移動し、磯辺の芸術会を開催する			
	・生き物の採取後に砂浜へ移動し、流木などを使って、自分のオリジナル芸術を作成する ・海で拾った物は自由に持って帰る		・必要に応じてビニール袋を配る ・安全面に配慮する	
展開	4：採った貝をみんなで食べる			
	・磯に落ちている流木を集めてビーチクリーンの意識を高める ・かまどを作り、採った魚介類を調理する ・ある程度採取したら、流木を拾って火を焚き、その上でみそ汁や貝の塩茹でを作ったりしてみんなで食べる ・紹介された写真等を見ながら一緒に探す ・ある程度採れたら、波のこないところに移動しガスコンロを使って鍋や焼き網で煮たり焼いたりして食べる（許可が得られる場合は、かまどを作り、流木を拾って火をたいて調理してもよい）	・食べられるものを写真等を使って教える（写真等の資料は配付する） ・岩に付いた貝等を採るために、マイナスドライバーを渡す（海中に落とさないためにひもを付け手に巻いておく）	・海岸で火をたく場合は、事前に管理者の許可を取ること ・マイナスドライバーの使い方の説明もすること	
展開	5：実際の貝を使った「貝の名前」当てクイズ 「貝の食べ方」クイズ			
	・親子でクイズに挑戦する ・今日の体験をより身近に感じられる		・実際の貝を使い、クイズを出題	
まとめ	自分の発見をみんなに伝える			
	・スケッチした生き物をみんなの前で発表したり、今日の発見をみんなに伝える	・親もスケッチしたものがあれば発表する 親子で感想を話す	・発表された生き物の名前を教える 今後も体験活動への積極的な参加を呼び掛ける	・ゴミや火の後始末をして、来た時よりも美しい状態にして帰る



森においでよ物語



指導員：岡林 道生 さん

若草幼稚園園長の岡林です。

体験活動で自然に触れることで、慈しみの心を育ててほしいと思います。

参加者公募開始から実施まで短期間だったので、参加者が集まるかどうか心配でしたが、高知新聞の広報誌『K+』の中で公募することになりました。

小さな記事で、またまた心配でしたが、なんと、若い保護者から大反響。「うちの子2才なんですけど参加できますか?」。広報誌(マスコミ?)の力ってすごいですね!

総勢54名の親子が、参加してくれました。



若草幼稚園「すくすくの森」に集合。
活動のルールを確認して、いざ、森へ!



あ!
空が見えるよ!

高い木
ばかりだね~



おっ
この木の葉、
もぐらいい!

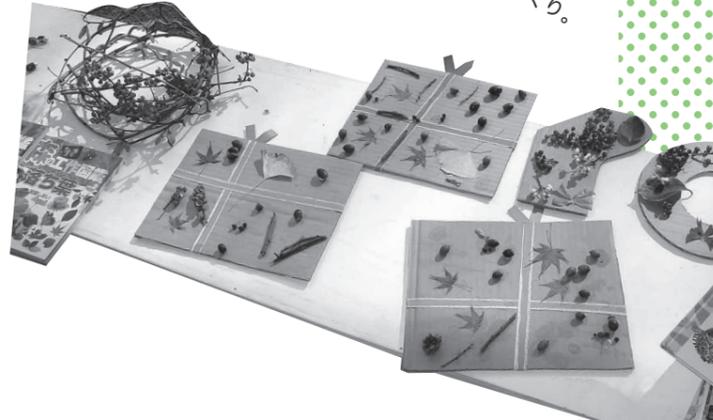


この木は...
キノコ...
おもしろいよ!



さーのびさ
遊ばせたいね!

わーい、
ふかふかだ!



木の葉や、落ち葉、小枝などを使って、作品づくり。



おもしろ
遊ばせたいね!

プログラムを終えて
最初は山の環境に戸惑いを覚えていた子どもたちも、昼食後には、自分たちで遊びを見つけようとしていました。「自ら遊びを見つけようしてほしい」という当初のねらいは達成されたのではないかと思います。また来たいという声がたくさんありました。

プログラム名 森においでよ

目的・ねらい ・四季折々の変化に触れて、自然の営みを感じながら、自然と共にあることに気づく
 ・身近な動植物に親しみ、自然界の多様性や生命のつながりを知る

実施時期・時間： 冬 / 4時間 30分

実施場所： 若草幼稚園 すくすくの森

対象年齢： 3～6歳

対象人数： 54名

指導者・支援者： 指導者6名、援助者4名、看護師1名

準備物： 参加者＝長袖・長ズボン、帽子、運動靴、虫予防の対策、お茶、タオル

主催者＝安全対策用具、軍手、スケッチブック、クレヨン(色鉛筆)、アルミ箔、門松づくりの材料、絵はがき作りの材料

プログラム構成

① 導入

あいさつ・自己紹介／注意事項の説明

② 展開

1. 芋を包む
2. 冬の景色を楽しむ
3. 森の中で遊ぶ
4. 岩山を登って頂上に上る
5. 芋を焼く
6. 門松・絵葉書をつくる
7. 焼き芋を食べる

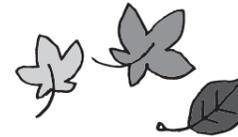
③ まとめ

参加者全員で共有の時間を過ごす

活動内容 (どのような手順で、どこで、何をするか)

	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
導入	あいさつ・自己紹介／注意事項の説明			
	・親と一緒に注意事項を聞く ・親と一緒に自己紹介	・子どもと一緒に注意事項を聞く ・子どもと一緒に自己紹介	・自然は楽しいが油断すると生命に関わることを説明する ・約束事の徹底をする	・森は広大なので、活動できるエリアや危険箇所をつかんでおく必要がある ・説明したことが理解できたか確認する
展開	1：芋を包む			
	・教えられて自分でやってみる	・自分の芋を包みながら子どもにも教える	・すきまをつくらないように説明する	・きちんと包めているか後で見て確認する
展開	2：冬の景色を楽しむ			
	・周りの景色を見て冬ならではの季節を感じる	・歩きながら木々や道で冬ならではの景色に気づき言葉にしてい	・冬ならではの森の装いに気づけるように配慮する ・ゆっくり歩く	・そこにある自然を体感させる 

展開

	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
展開	3：森の中で遊ぶ			
	・大きな木々に囲まれて、好きな遊びを見つける ・見つけたものをメモしたり、スケッチしたりする ・昆虫と遊ぶ ・木の実、葉っぱ等を集めて遊ぶ ・食べられる木の実を食べる	・子どもがどんなことに興味を持ったか見極め楽しめるように配慮する ・スケッチブックやクレヨンを持ち、子どもが必要な時に渡す ・子どもと一緒に葉っぱを集めたり、木の実を探す	・静かな時間を設ける ・森の中ならではの遊びをやってみせる ・五感を研ぎ澄ます活動をする ・生命のつながりの絵本等を利用して自然の営みを伝える ・採取の仕方を教える ・木の実の食べ方を教える ・虫にも実にも自分の住かがあることを教え、むやみに持って帰らないことを子どもに教える	・興味や関心を上げられるようにする ・休憩所などに凶鑑を用意しておく ・わからないものを口に入れたりしないように注意する
				
展開	4：岩山を登って頂上に上る			
	・指導者や親に助けられながら、岩山を登る ・頂上で声を出してみる	・見守る姿勢を大切に励まします	・必要以上の援助はしないが、いつでも手助けができるようにする ・緊張感を持って接する	
展開	5：芋を焼く			
	・山の枯れ枝を集める ・火に近づき過ぎないようにしながら、様子を見る	・子どもと一緒に山の枯れ枝を集める	・火の周りを囲む ・子どもが火に近づかないように注意する	・子どもの動きから目を離さない
展開	6：門松・絵葉書をつくる			
	・好きな方からやってみる ・自分の思ったとおりにやってみる	・子どもの発想を大切に ・必要な時だけ手助けをする	・門松づくりの指導 ・絵葉書づくりの指導 ・楽しんでできるように声をかけたり、援助したりする	・積極的、主体的にできるような声をかける ・作品に共感する
				
展開	7：焼き芋を食べる			
	・熱いので気をつけて食べる	・熱いので気をつける		・子どもが火に近づかないように注意する ・子どもの動きから目を離さない
まとめ	参加者全員で共有の時間を過ごす			
	・今日の感想や気づいたことをみんなで話す ・余分な物は森へ返す	・子どもの気持ちを引き出し言葉にできるようにする	・一人ひとりに話を聞く	・一人ひとりの言葉や表現に共感しながら、感じたことを言葉にしやすいよう配慮をする

こんな遊びも
できます

葉っぱのフィールドビンゴ／葉っぱじゃんけん『はっぱっぱ』
 おかあさんいっしょに『葉っぱ相撲』しよう



CASE 03

はじめての コックさん物語



指導員：東森 歩さん

株式会社 サニーマートの東森です。
 サニーマートでは日常的に料理教室を開いているので、調理指導員もキッチンスペースも社内内で用意できました。
 7組 14名の親子がサニーマート御座店キッチンプラスで料理スタート。
 さて、何ができるのかな？



いよいよ料理スタート！

本日のメニュー

- チキンバーグ
- ラップサンド
- グレープサンテリア



キッチンプラスの地味お料理...
 野菜を美味しくしたの
 おいしいメニューだね★



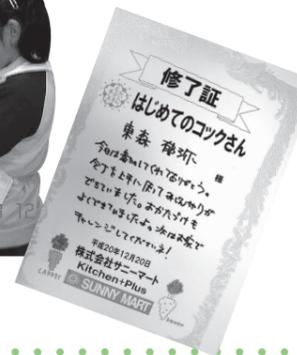
「キッチンプラスの地味お料理...」
 「野菜を美味しくしたの」
 「おいしいメニューだね★」



さすが、お母さん
 手際がいい.....



最後に、参加者全員に、それぞれの様子を見て、
 手書きで感想を書き込んだ「修了証」を授与しました。



プログラムを終えて

家庭に帰ってからお手伝いすることも考えて、できるだけ本物の道具(包丁等)を使うようにしました。後日、家庭でも料理をするようになったという声が届いています。

プログラム名 はじめてのクックさん

- 目的・ねらい**
- ・自分の力で料理をすること
 - ・料理素材に関する知識
 - ・親子で協力すること

実施時期・時間： 12月 / 3時間

実施場所： サニーマート御座店キッチンプラス (料理教室コーナー)

対象年齢： 小学生

対象人数： 14名 (親子7組)

指導者・支援者： 2名

準備物：

料理ができる会場・調理道具・料理の素材・レシピ (料理方法を記したもの)・エプロン・修了証

プログラム構成

① 導入

料理前の準備

② 展開

1. 内容・調理手順の説明
2. 関連クイズ
3. 料理開始
4. 料理中盤
5. 料理後半
6. 試食
7. 修了
8. 片付け・解散

活動内容 (どのような手順で、どこで、何をするか)

	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
導入	料理前の準備			
	・集合し身支度を整える (エプロン・三角頭巾)	・集合し身支度を整える ・子どもの身支度のサポート	・参加者人数の確認と参加者それぞれの様子を観察	・参加者の様子からこうした活動への慣れ度 (積極度) を見て、苦手な方のフォローに注意すること
展開	1：内容・調理手順の説明			
	・講師の近くに集まって自己紹介や今日の料理の説明や注意点を聞く	・講師の近くに集まって自己紹介や今日の料理の説明や注意点を聞く	・自己紹介のあいさつと料理の進行説明や注意点の説明をする	・あいさつは明るく、元気よく ・説明はなるべく分かりやすい表現で行う ・食材の名前や道具の名前、使い方も現物を示しながら行うと分かりやすい ・チーム分けは、この場面で ・各テーブルにチームごとで集まる
	2：関連クイズ			
	・関連クイズに挑戦	・関連クイズに挑戦	・調理する料理の関連クイズを出す	



包丁はあぶないので、気をつけて使ってくださいね

展開

	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
展開	3：料理開始			
	・作業前に手洗いをする ・それぞれの作業台に分かれて料理を開始する ・切ったり、焼いたり、味付けに挑戦する	・作業前に手洗いをする ・それぞれの作業台に分かれて料理を開始する ・子どもにまずやらせて、親は見守り、子どもができないところを手助けする	・各作業台を巡回してスムーズに料理が開始できているかを確認する ・声を掛けて周り、次の手順にとまどっている親子をサポートする	・積極的にできる親子と苦手な親子がいるので、フォローをしっかりと ・なるべく子どもが挑戦できるように仕向けていく ・包丁や火器などの扱いには十分に注意する
	4：料理中盤			
			・必要があれば全員の手を止めて、もう一度説明をする	
	5：料理後半			
	・出来た料理から盛り付けに入る ・飾りつけを創意工夫する ・使い終わった道具の片付けを行う	・盛り付けをサポートしながら片付けのことも子どもにも気づかせる ・片付けは協力して行う	・早くできる親子と時間の必要な親子がいるので、全体のペースに注意しながら、フォローをする ・作るのが早い親子は片付けに入る	・親が作業してしまい、子どもが見ているだけのところはないかどうかをチェックする ・全体の進行の遅い・速いにも注意する
	6：試食			
	・片付けを終えてテーブルセッティングを完了したら試食をする	・片付けを終えてテーブルセッティングを完了したら試食をする		・全員揃ってから「いただきます」をするために、早くできたら待つように指示する ・味やできばえの感想を聞く ・記録用の写真を撮影する



子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
7：修了			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 試食を終えたら修了証をもらう ・ 全員がもらい終わってから「ごちそうさまでした」をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修了証を全員がもらい終わってから「ごちそうさまでした」をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修了証を授与する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出来たところをほめるための修了式を行う ・ 子どもに自信をつけさせる ・ 親の関わりも評価する
8：片付け・解散			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食器を片付ける ・ 片付けが終わったら解散する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食器を片付ける ・ 片付けが終わったら解散する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員が参加して片付けを行うように指示する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忘れ物がないよう注意する
<ul style="list-style-type: none"> ・ レシピを持ち帰って家でも挑戦してみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅で親子で料理をする ・ 食事を一緒にとるなど子どもとの時間を積極的にとるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅でも挑戦することを想定し、説明の中にもそのことを促すような表現を入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レシピはできるだけ字を大きく、写真入りでつくる

ほかにも
こんなプログラム
があります！



【参考プログラム】

内 容	<p>料理見本を参考に調理し、料理見本と同じ食材・味(付け)・盛り方にする。 また、似ている食材や調味料、さまざまな調理器具を並べておき、その中から本物(必要なもの)を選んで調理する。 ヒントカードを用意しておいて、困った時に1回だけヒントをもらえるようにしておく楽しい。 調理後は、参加者全員で試食し、審査する。(賞を用意する) 最後に今日のレシピを渡す。</p>
目的・ねらい	<p>料理見本と同じように調理するために、五感をフルに活用する。 本物を見極め、食への感心を深める。 自分の作った料理は、残さず食べることで食の大切さを知る。</p>

3章 プログラムをつくってみよう！

1. プランの立て方
2. PDCA サイクルの活用
3. 「プランニングシート」記入例
4. 「チェックシート」記入例

■ 実際につくってみよう！
プランニングシート

■ チェックも大切だよ！
チェックシート

■ プログラムシート

プログラム事例

自然体験

- ①はじめまして海(川)です
- ②子ども建築士になろう

文化体験

- ①おはなしワールド
- ②「コロコロアート」と「こねこねあーと」

プランの立て方

プログラムを作成するにあたっては、子ども一人ひとりの主体性を何よりも大切に、子どもの発達や学びの連続性を踏まえたものでなければなりません。受動的な活動、単なるイベント的な活動にならないようにすることが大切です。

本章では、その体験活動プログラムの作成について考えていきたいと思います。



「ねらい」を明確にしよう！

体験活動プログラムを作成するには「ねらい」が大切です。

- 子どもの現状を把握する
- 子どもにどのような力をつけさせたいか明確にする



具体的にプランニングしてみよう！

- ① 季節・期間・時間の設定（いつ：When）
- ② 場所の設定（どこで：Where）
- ③ 対象者の設定（だれに：Who）
- ④ プログラム内容の検討①（何を：What）
- ⑤ プログラム内容の検討②（どのように：How）
- ⑥ 指導者・支援者
- ⑦ 実施場所の下見
- ⑧ 指導者・支援者の役割分担
- ⑨ 安心・安全への対応：緊急マニュアル、傷害保険、オリエンテーション等

ねらいを達成するために、プランニングシートを活用し、次の視点で計画を立ててみましょう。



- 子どもの年齢に応じた、主体性を大切にプログラムにしよう
 - ・子どもができること、子どもに挑戦させたいこと、大人が手伝うことを考えましょう。
- ゆとりあるプログラムにしよう
 - ・時間がかかるのはあたりまえ、ゆっくり活動できるものにしましょう。
- 安心・安全・健康に配慮したプログラムにしよう
 - ・実施場所の下見や、指導者や支援者の役割分担等、打合せをしっかりと行いましょう。
- 一過性でないプログラムにしよう
 - ・体験活動が家庭での生活につながるようにしましょう。

P D C A サイクルの活用



「プランニングシート」記入例

活動名	例『森での体験活動』	作成日： 年 月 日 氏名：
目的・ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の変化に触れて、自然の恵みを感じながら、自然と共にあることに気づく ・身近な動植物に親しみ、自然界の多様性や生命のつながりを知る 		
いつ (When)	どこで (Where)	だれに (Who)
<ul style="list-style-type: none"> ・春 ・秋 ・冬 (特に季節は問わない、季節に応じた楽しみや感動がある)	<ul style="list-style-type: none"> ・里山 ・身近な裏山 ・少し離れた森や山 	<ul style="list-style-type: none"> ・3～5才の子ども20名とその親(合計40名程度) (場所の広さや、参加者の状況、指導者の数によって若干調整が必要)
何を (What)	どのように (How)	指導者・支援者
<ul style="list-style-type: none"> ・秋の森での自由活動 ・見つけたもののスケッチ ・色々なものを集める ・葉っぱ遊び 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・春は新緑を感じる ・秋は実りを楽しむ ・冬は落葉等を使って楽しむ 等 ・子どもを親や指導者は見守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会の指導者のおじさん ・青年団のお兄さんやお姉さん ・幼稚園や学校の先生 ・その他、地域の大人
準備物 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者……長袖、長ズボン、帽子、運動靴、虫予防の対策、お茶、タオル ・主催者……軍手、スケッチブック、クレヨン(色鉛筆) 		
実施場所の下見	指導者・支援者の役割分担	安全・安心への対応
<ul style="list-style-type: none"> ・事前に対象となる森の下見 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者最低4名程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・傷害保険への加入 ・活動前のオリエンテーション

「チェックシート」記入例

活動名		作成日： 年 月 日 氏名：
いつ (When)	どこで (Where)	だれに (Who)
<ul style="list-style-type: none"> ・時期は適当であったか？ ・開始時間や終了時間は適当であったか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所は適当であったか？ ・活動できる場所は適当な広さがあったか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の対象年齢は適当だったか？ ・人数は適当だったか？
何を (What)	どのように (How)	指導者・支援者
<ul style="list-style-type: none"> ・体験内容は参加者が楽しめていたか？ ・子どもたちに気づきがあったか？ ・他にできることはなかったか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じたプログラムになっていたか？ ・創造力を高められたか？ ・五感を存分に使えたか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・親や指導者は、見守りを中心とし、子どもの自主性を生かすことができていたか？
準備物 不足した準備物はなかったか？		
実施場所の下見	指導者・支援者の役割分担	安全・安心への対応
下見が実際の活動に役立てられていたか？	指導者や支援者の数は適切であったか？	参加者に十分理解させることができていたか？

活動全体を振り返って「ねらい」は達成できたか

ねらいを達成するために、季節や場所、参加者の年齢等に応じた活動になっていたか？



次回へどう生かすのか

参加者や指導者からアンケート等を取り、次回の活動へ生かす



実際につくってみよう！
プランニングシート

活動名	作成日： 年 月 日 氏名：	
目的・ねらい		
いつ (When)	どこで (Where)	だれに (Who)
何を (What)	どのように (How)	指導者・支援者
準備物		
実施場所の下見	指導者・支援者の役割分担	安全・安心への対応



チェックも大切だよ！
チェックシート

活動名	作成日： 年 月 日 氏名：	
いつ (When)	どこで (Where)	だれに (Who)
何を (What)	どのように (How)	指導者・支援者
準備物		
実施場所の下見	指導者・支援者の役割分担	安全・安心への対応
活動全体を振り返って「ねらい」は達成できたか		
↓		
次回へどう生かすのか		

プログラム名

目的・ねらい

実施時期・時間：

実施場所：

対象年齢：

対象人数：

指導者・支援者：

準備物：

プログラム構成

① 導 入

② 展 開

③ ま と め

活動内容 (どのような手順で、どこで、何をするか)

子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点

子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点

プログラム名 はじめまして海(川)です

冬の海での事例を紹介しています。季節や場所に応じて適宜アレンジしましょう

- 目的・ねらい**
- ・親子で一緒に砂の感触を知る
 - ・自然の中で体育遊びを行う
 - ・親子で喜びを共有する

実施時期・時間： 冬 / 2時間～3時間

実施場所： 土佐清水市 大岐の浜

対象年齢： 3～5歳

対象人数： 40名(親子で20組)

指導者・支援者： 5名

- 準備物**：
- 参加者＝帽子、運動のできる服装、着替え、お弁当
 - 主催者＝ビニールシート、ロープ、テント
 - 砂遊びセット、スコップ(大)、バケツ

プログラム構成

① 導入

ねらいの説明／注意事項の説明

② 展開

1. 砂の感触を楽しむ
2. 親子で体を動かす
 - ①親子で体育遊び
 - ②親子対抗綱引き
3. 親子で砂遊びやカニ取り

③ まとめ

共有の時間

活動内容 (どのような手順で、どこで、何をするか)

	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
導入	ねらいの説明／注意事項の説明			
	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で一緒に注意事項を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいの説明 ・冬場なので波打ちぎわに行かないよう注意する ・ルールを守るということを徹底する 		<ul style="list-style-type: none"> ・天候の配慮を行う(事前に天気予報を調べておく)
展開	1：砂の感触を楽しむ			
	<ul style="list-style-type: none"> ・裸足になり、砂の感触を楽しむ ・砂の重さを感じ、歩いたり走ったりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子を注意して見守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険がないように見守る ・子どもたちと一緒に体を動かす 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面に配慮する

展開

	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
展開	2：親子で体を動かす			
	①親子で体育遊び			<ul style="list-style-type: none"> ・危険がないように見守る ・子どもたちと一緒に体を動かす ・綱を用意し、安全に行えるように注意する
	<ul style="list-style-type: none"> ・砂の感触を楽しみながら、体育遊びをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の体育遊びを通して、喜びを共にする 		
②親子対抗綱引き			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのたくましさを知ると共に、自然の中で一緒に過ごすことを楽しむ 	
展開	3：親子で砂遊びやカニ取り			
	<ul style="list-style-type: none"> ・親と一緒に手をつなぎ海を眺め、聞こえる音を探させる ・海の広さを実感する ・波の音を実感する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に砂遊びを行う ・親と一緒にカニ取りに挑戦する 	<ul style="list-style-type: none"> ・砂遊びの説明と道具を配布する(道具がなければ自由に楽しんでもらう) ・カニ取りを説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ・砂浜での遊びを工夫させる
まとめ	共有の時間			
	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の感想を親子で話す ・命のあるものや余分なものは海へ帰す 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの感動を受けとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節により海や夕日の表情が違うことや、そこで見つけることができるものも違ってくることを話す 	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけたものは家に持ち帰り図鑑等で親子で調べる ・その季節に応じた自然を体感する

プログラム名 子ども建築士になろう

目的・ねらい

- ・林業を身近に感じる
- ・木に実際に親しみ、木を使う楽しさを実感する
- ・材料を山から収穫することで、山の恵みを学ぶ

実施時期・時間： 第1回／4時間
第2回／6時間

実施場所： 第1回 高岡郡栲原町内の各地
人工林や木材加工工場(製材工場)の見学
第2回 高知県森林総合センター情報交流館
炭窯での木工や里山林の散策

対象年齢： 小学校1年～5年

対象人数： 小学生4名・保護者等5名

指導者・支援者： 6名(内大学生5名)

準備物：
参加者＝長袖・長ズボン、帽子、運動靴、タオル(冬場は防寒着)
雨具、筆記用具、使い慣れた薬(虫刺され、車酔い)

主催者＝1日目：ヘルメット、軍手、救急セット、画板、虫除けスプレー、テキスト

2日目：のこぎり、釘、カナヅチ、ドリル、木工ボンド、木工材料(板・角材)、軍手、ブルーシート、さしがね、くぎ抜き、テキスト

プログラム構成

① 導入

あいさつ・自己紹介／注意事項の説明

② 展開

- 1回目 ①林業見学
②木材加工所を見学する
- 2回目 ①小さな家づくり
②里山見学(材料探し)
③設計、完成

③ まとめ

参加者全員で共有の時間を過ごす
アンケートを配る

活動内容 (どのような手順で、どこで、何をするか)

	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
導入	あいさつ・自己紹介／注意事項の説明			
	・親と一緒に注意事項等を聞く	・子どもと一緒に注意事項等を聞く	・約束事の徹底をする	・夏には蛇や蜂にも注意する
展開	1回目 ①林業見学			
	<ul style="list-style-type: none"> ・林業がどのようなものかを体感する ・山歩きを楽しむ ・人工林のイメージを体感する 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面での配慮を行う ・間伐を説明する ・間伐を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林組合や森林関係のボランティア団体などに支援してもらう ・天候に左右されるため無理はしない 	

展開

	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
展開	②木材加工所を見学する			
	<ul style="list-style-type: none"> ・加工された木材が実際の家の材料となるというイメージをもって見学する 	<ul style="list-style-type: none"> ・加工所について説明する ・伐採から加工までの過程を説明する ・木材を体感する(におい、手触り、色、年輪の数など) 		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな木材があることに気づかせる
	2回目 ①小さな家づくり			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員と一緒に道具を使いながら家の骨組みと屋根をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ・親も子どもと一緒に作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニチュアの家サンプルを見せてから、これからのような家をつくるかイメージさせる ・サポートをしながら家づくりを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の規格化された家を考えておく ・道具の使い方を知らない場合は指導する ・親にも一緒にやってもらうように促す
	②里山見学(材料探し)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・里山を歩きながら葉っぱや枝や木の皮などの材料を見つける 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に材料を見つける 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉や木の名前を教えながら、使えそうな材料を採取する 	<ul style="list-style-type: none"> ・山に入るので安全面に配慮(蛇や虫なども)する ・指導員も同じように材料を集めて不足する場合に備える
③設計、完成				
<ul style="list-style-type: none"> ・材料を使いながら自分だけの家を完成させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・親も子どもと一緒に作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている親子をサポートする 		
参加者全員で共有の時間を過ごす／アンケートを配る				
<ul style="list-style-type: none"> ・活動の感想や、それぞれの完成品についてみんなで話す 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に感想を話す 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに話を聞く 		
まとめ				

プログラム名 おはなしワールド

目的・ねらい ・読み聞かせを通じて、ゆったりとした時間を過ごす
 ・お話や物語のつづきなどを考えることで創造力を養う

実施時期・時間： 年中 / 2時間

実施場所： 高知こどもの図書館

対象年齢： 5歳～10歳

対象人数： 5名（親子1組）

指導者・支援者： 4名

準備物：

参加者＝つづきを考える好きな絵本・本

主催者＝読み聞かせ用絵本、リング式スケッチブック、クレヨンなど

プログラム構成

① 導入

内容の説明

② 展開

1. 読み聞かせ
2. つづきを考えよう
3. 作品を発表する

活動内容（どのような手順で、どこで、何をするか）

	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
導入	内容の説明			
	・親と一緒に話を聞く	・内容を確認する	・今日のプログラムを説明する ・親子で絵本に親しんでもらうねらいを説明する	・好きな絵本を家から持ってくる
展開	1：読み聞かせ／持ってきた絵本・本を読んでもみる			
	・指導者の絵本の読み聞かせを聞く ・親の絵本・本の読み聞かせを聞く	・指導者の絵本の読み聞かせを子どもと一緒に聞く ・子どもに読み聞かせをする	・絵本の読み聞かせをする	

展開

子どもの動き 親(大人)の動き 指導者の動き 留意点

2：つづきを考えよう

- ・読んでもらった絵本から話のつづきを考える
- ・絵や文章をスケッチブックに書(描)く
- ・子どもと一緒に絵や文章を考える
- ・子どもの創造を否定したり、邪魔したりしない
- ・子どもと話しながら、子どもの創造を楽しむ
- ・スケッチブックとクレヨンを配る
- ・それぞれのペースでやっても良いことを伝える
- ・自由につくることが大切であることを伝える



どんな物語を創っているんだろう...



3：作品を発表する

- ・完成作品を見せながらストーリーを話す
- ・子どもと一緒に絵本をめくる
- ・必要な時は声をかけるなど援助する
- ・それぞれの作品に共感し、声をかける

発表しまーすー



みんなのいろいろなお話がきけて楽しかったー

また、いつしよにやりたいね★



お話や、つづきを創造することは小さい子ほどノリがいいようです

その他

- ・できたものを持ち帰って、家族や友だちに伝える

プログラム名 「コロコロアート」と「こねこねあーと」

目的・ねらい

- ・はじめての画材体験、色の美しさやこねることの楽しさを親子で感じる
- ・自由に表現することを楽しむ
- ・親子で対話しながら色や形を見つける楽しさを味わう

実施時期・時間： 年中 / 2時間

実施場所： 四万十市中央公民館

対象年齢： 3歳～6歳

対象人数： 10名(親子5組)

指導者・支援者： 指導者4名

準備物：

参加者=着替え、タオル

主催者=【コロコロアート】ビニールシート、ロール紙又は綿布、画用紙、絵の具(3色以上)、ボール(大小各種)、バケツ、ハケ、雑巾、石けん

【こねこねあーと】色粉(食用)、小麦粉、ボウル、まな板、タオル、レインコート

プログラム構成

コロコロアート

- ① 導入
注意事項等の説明
- ② 展開
1. 絵の具を溶いてボールを選ぶ
 2. ボールを転がす①
 3. ボールを転がす②
 4. 見せ合う

- ③ まとめ
活動を振り返って感想を言い合う

こねこねあーと

- ① 導入
注意事項等の説明
- ② 展開
1. 好きな色を選ぶ
 2. 形をつくる
 3. 色を交ぜる
 4. 見せ合う

- ③ まとめ
活動を振り返って感想を言い合う

活動内容 (どのような手順で、どこで、何をするか)

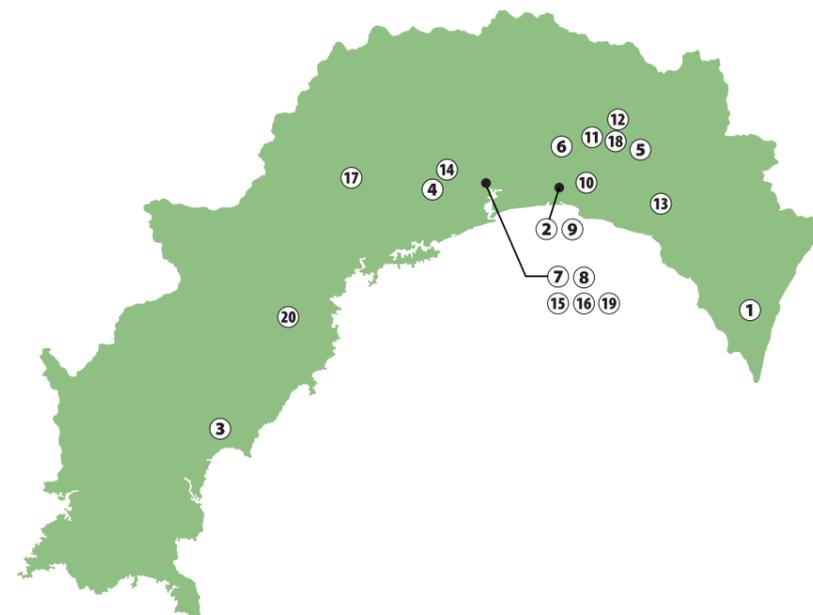
	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
導入	【コロコロアート】注意事項等の説明			
	・親と一緒に話を聞く	・子どもと一緒に話を聞く	・絵の具を溶いて色の見本を見せる	・汚れてもいいようにブルーシートを敷く
展開	1：絵の具を溶いてボールを選ぶ			
	・実際にバケツの中で色を溶く ・ボールを選ぶ	・バケツを運ぶのを注意して見守る	・ロール紙を配る ・画用紙を配る ・実演してみせる	・絵の具の濃度を調整する



	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
展開	2：ボールを転がす①			
	・バケツにボールを浸して取り出し、転がす ・手に着いた色を手型の様に紙に押す ・絵の具の感触を楽しむ ・ボールの大きさやバケツの色によって偶然できた模様を楽しむ	・子どもが転がしたボールを返す ・一緒に手型を押す	・ブルーシートから出ないように注意する	・自由にボールを「転がす」ことを大切にする
展開	3：ボールを転がす②			
	・2～3個の大小ボールを紙にのせ、両端をもって転がす	・子どもと紙の両端をもち、ボールを転がしてみる	・色々な「転がす」方法を伝える	・自由発想を大切にする
展開	4：見せ合う			
	・できたものを見せ合う	・きれいな色やおもしろい線が描けたことを一緒に喜ぶ	・親子で描いた線や色を互いに評価しあう	
導入	【こねこねあーと】注意事項等の説明			
	・親と一緒に話を聞く	・子どもと一緒に話を聞く	・小麦粉、水、まな板、ボウル、色粉を配る ・誤飲に注意する	・色粉の量、水の量を伝える
展開	1：好きな色を選ぶ			
	・小麦粉、色粉、水を入れてこねる ・感触を楽しむ	・子どもの様子を見ながら手伝う		・見守る
	2：形をつくる			
・好きな形をつくってみる	・子どもと会話しながら一緒ににつくる		・見守る	
3：色を交ぜる				
・違う色の小麦粉粘土を交ぜてみる	・一緒に交ぜて見せ合う			
展開	4：見せ合う			
	・できたものを見せ合って、色や形の変化を楽しむ	・きれいな模様や形ができたことをほめながら一緒に喜ぶ	・親子で造った形や模様に関心する	・一人ひとりの個性が活かされた色や形になっていることを評価する
まとめ	活動を振り返って感想を言い合う			
	・アンケートを書く ・記念撮影をする	・アンケートを書く ・記念撮影をする	・記録をとる	

その他のプログラム

プログラム名	概要
葉っぱいろいろ 葉っぱのフィールドビンゴ	いろいろな形や色の葉っぱの特徴を題材にして森に親しんでもらう。 事前に作成した葉っぱのフィールドビンゴカードをもとにいろいろな葉っぱを探す。
不思議だな～？ 植物があみ出した 種の工夫を調べよう	「植物って、すごいな」を感じよう！！ 植物は動くことができない。その欠点を克服するために長い年月を重ね進化し、種の繁栄のために様々な工夫をしてきた。その植物のすごさを体感してみよう。
農業用水の旅を たどってみよう	家の周りに流れる農業用水の源をたどっていると見えてくるものがある。 水の源である山の現状を探ってみよう。
親子で楽しくダイエット	野外活動やスポーツ体験を通じて子どもの肥満対策に親子で一緒に取り組む。
新米ママ・パパ応援隊	新米ママ、パパが野外体験のルールやマナー、スキル等を学習し、子どもとともに野外活動をできるようにする。
野菜作りを体験しよう	【プランター・南京袋サイズの家庭菜園】野菜は自分たちでもつくれるものだということを体験する。 【小さな体験農場での取り組み】地域のお年寄りの講師のもとに、親子で一緒に野菜づくりに取り組む。
朝焼けを観察しよう 早起きは三文の得	親子で早起きをし、朝焼けをじっと観察する。
幸せの黄色いハンカチ	タマネギの皮を使ってハンカチを黄色に染色する。
あのね、あのね	3つのグループに、1つの絵本を、前半、中盤、終盤と分けて読み聞かせをし、その後、それぞれのグループが読み聞かせの内容を発表し、話をつなげることで、1つの話を完成させる。
キャンドルアート	いろいろな色や形のオリジナルなキャンドル（ローソク）をつくり、それに灯をともして、親子でキャンドルナイトを過ごす。
世界に一冊だけの絵本	生まれたときの様子や写真、幼稚園、小学校入学等の節目の写真やエピソード、お父さんお母さん等の家族からのメッセージや絵を入れた、世界に一冊だけの絵本を親子でつくる。
親子で過ごす幸せな時間	親子の触れ合いを大切にしたい童唄遊びや子守歌、童謡と一緒に歌ったり、絵本の読み聞かせ、パネルシアターなどを行い、親子でゆったりした時間を過ごす。
くいしんぼ探検隊 とれたて・できたてを味わおう	畑の作物を、収穫し、見て、触れて、嗅いで、そのまま調理し、味わう。



県内の青少年施設等

- ① 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家
室戸市元乙1721 TEL：0887-23-2311
- ② 県立青少年センター
香南市野市町西野303-1 TEL：0887-56-0621
- ③ 県立幡多青少年の家
幡多郡黒潮町上川口1166 TEL：0880-44-1001
- ④ 県立高知青少年の家
吾川郡いの町天王北1丁目14番地 TEL：088-891-5331
- ⑤ 県立香北青少年の家
香美市香北町吉野1300 TEL：0887-59-2239
- ⑥ 高知市立工石山青少年の家
高知市土佐山高川1898 TEL：088-895-2016
- ⑦ 県立美術館
高知市高須353-2 TEL：088-866-8000
- ⑧ 県立牧野植物園
高知市五台山4200-6 TEL：088-882-2601
- ⑨ 県立のいち動物公園
香南市野市町大谷738 TEL：0887-56-3500
- ⑩ 県立月見山こどもの森
香南市香我美町岸本1269-7 TEL：0887-55-1682
- ⑪ 高知県森林総合センター情報交流館
香美市土佐山田町大平80 TEL：0887-52-0087
- ⑫ 甬喜ヶ峰森林公園
香美市土佐山田町平山 TEL：0887-57-9007
- ⑬ 安芸市立歴史民俗資料館
安芸市土居953-イ TEL：0887-34-3706
- ⑭ いの町紙の博物館
吾川郡いの町幸町110-1 TEL：088-893-0886
- ⑮ 桂浜水族館
高知市浦戸778 TEL：088-841-2437
- ⑯ 高知県立文学館
高知市丸ノ内1-1-20 TEL：088-822-0231
- ⑰ 横倉山自然の森博物館
高岡郡越知町越知丙737-12 TEL：0889-26-1060
- ⑱ 龍河洞博物館
香美市土佐山田町逆川1434 TEL：0887-35-4376
- ⑲ わんぱくこうちアニマルランド
高知市棧橋通6-9-1 TEL：088-834-1890
- ⑳ 大野見青年の家
高岡郡中土佐町大野見吉野 TEL：0889-57-2129

ボランティア・体験情報

- ボランティア・NPO情報システム（ピッピネット-情報バンク-助成金情報） <http://www.pippikochi.or.jp/>
- (社)高知県森と緑の会 TEL：0887-52-0072 <http://www.moritomidori.com/>
- こうち山の日ボランティアネットワーク事務局(森の応援団・さんりん倶楽部) TEL：088-822-5331
- NPO法人 NPO 高知市民会議(わいわいくじら) TEL：088-820-1865 <http://www.siminkaigi.com/>

ボランティア保険

- スポーツ安全保険（スポーツ安全協会高知県支部 TEL：088-820-1755）
 - ボランティア活動保険
 - ボランティア行事用保険
- 〔 社会福祉法人全国社会福祉協議会
TEL：03-3581-7851 <http://www.fukushihoken.co.jp> 〕

幼少期における感動体験モデル事業検討委員

井土 晴喜	NPO法人 YASU海の駅クラブ
井上 将太	高知大学 農学部 森林科学科
岡林 道生	学校法人 若草幼稚園
砂田 孝男	高知県立 青少年センター
常石 勝	情報交流館ネットワーク
伊藤 拓瑠	高知大学 人文学部 人間文化学科
小笠原 まき	絵本作家
下司 眞由美	高知県立 大方高等学校
武市 真寿美	NPO法人 高知市こども劇場
東森 歩	株式会社 サニーマート

協力者

山下 文一	文部科学省 初等中等教育局幼児教育課 子育て支援指導官
栗原 雄二	有限会社 アートライフコーポレーション 代表

幼少期感動体験
プログラム作成ガイドライン

ビビビ、
五感全開 心でキャッチ!

発行：高知県教育委員会事務局生涯学習課

〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目7-52(県庁西庁舎2階)
TEL：088-821-4745
FAX：088-821-4505
E-mail：310401@ken.pref.kochi.lg.jp
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310401/>

制作：南の風社 表紙イラスト：mana



めったで先生

今日 めったで 先生。

朝 くる 時

アメリカザリガニ つかまえたが。

けんど バケツが なかったき

そのまま もって きよったが。

そしたら ザリガニが おこって

おもいつきり

あたしの ゆび はさんだが。

めったで 先生。

(やまもも第12集・日章小二年 吉本 絵美)

※めったで困った